

◆ 美ヶ原自然保護センター（以下「センター」という）の概要

竣工年月	平成5年3月
所在地	松本市 美ヶ原高原
建築面積	629.36㎡（木造平屋建）

<センターの役割>

- ・公園の利用案内・情報提供
- ・自然及び人文の解説
- ・自然とふれあうことのできる体験の指導・促進
- ・休憩・避難場所の提供

○利用者数の推移

※開館期間：4月下旬～11月初旬 開館時間：9：30～16：00

年	R7	R6	R5	R4	R3	R2	R1	H30
人	5,968	6,159	6,999	5,954	5,011	9,205	13,233	13,815

◆ 課題

➤閉鎖的な雰囲気

入口が分かりづらく、館内は暗く気軽に立ち寄れる雰囲気ではない外観

➤展示物の老朽化及び陳腐化

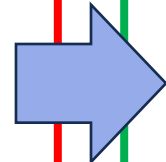
既存の展示では、近年の美ヶ原の自然環境に関する情報が不十分である
また、展示方法が陳腐化しており、展示の質・量ともに魅力が減退している

➤施設の老朽化

霧の多い地域であるため館内の湿気が溜まりやすいが、十分な換気が行き届いていないため床が浮くなどの現象が発生している

➤来館者への非対応

常駐職員がおらず、来館者への対応が十分にできていない



◆ 目指す姿

◇施設

- ・駐車場からのアプローチを改善し、館内へと誘導しやすい外構
- ・天候が変化しやすい美ヶ原における数少ない避難施設
- ・子連れや高齢者、障がい者、訪日外国人など全ての利用者が使いやすい施設

◇展示

- ・地域独自の自然や文化を発信・体感できる展示
- ・デジタル展示等の最新技術の導入、魅力を楽しく伝える解説、魅力的なスポットの案内
- ・天候が悪くても美ヶ原の魅力を体感でき、再来訪への期待を抱かせる展示

◇運営

- ・指定管理者制度の導入など、自然解説員を配置することで、レクチャールームでのイベントやエコツアーの実施などが可能となり、美ヶ原利用の拠点となる
- ・情報発信コーナーの設置により、花の見どころや周辺情報を発信

◆ 改修方針（案）

➤センターへの誘導機能の強化

来園者をセンターへ誘導するため、駐車場からのアプローチの改善により誘導機能を高める

➤美ヶ原の魅力を伝える展示等の充実

最新の展示技術の導入、更新が容易なパネルの導入や情報発信コーナーの改修により自然環境、歴史・文化を楽しく学べる空間を提供

➤ゼロエネルギー化の推進

化石燃料を原則不使用とし、太陽光パネル及びペレットストーブの導入、建物の断熱改修等によりゼロエネルギー化を推進

➤バリアフリーを意識した施設の改修

高齢者や障がい者、訪日外国人等が使いやすいバリアフリースイールの導入など、全ての人が使いやすい施設への改修

◆現時点で想定している基本構想の方向性

◇既存施設の現況調査、課題の整理

➢換気能力、断熱性能、館内照度、空間活用の状況、外観、駐車場からのアプローチ、電気・水の供給、道中の案内標識の有無 等

◇外構整備計画

(現況) 窓がシャッターで閉ざされ、展示施設であることが分かりづらい。駐車場からセンター入口への分かりづらいアプローチ

➢開かれた印象を受ける外観への転換

➢松本市の売店の移設に合わせ、駐車場からセンター・売店からセンターへと繋がる雨除けを備えたバリアフリー歩道の整備 等

◇設備改修計画

(現況) 換気が行き届かない、また春・秋や悪天候時に低温となる館内

➢空調の改善や断熱改修等により室内環境を改善し、カビや床の浮き発生の抑制や利用者の滞在環境を向上させる

◇ゼロエネルギー化に向けた実現可能性の調査

➢既存施設の現況調査の結果及び先行事例を基に実現可能性を検討

◇展示改修計画

(現況) 設立当時の美ヶ原の様相を伝え、当時からの変状を伝えられていないパネル及び映像。解説が乏しい寄贈された昆虫標本の陳列

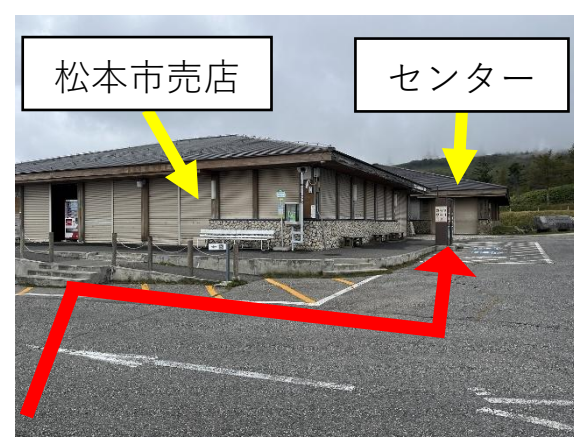
➢有識者監修の下、現況を反映した展示物を作成

➢霧の発生率が高い場所であるため、天候が悪くても美ヶ原の魅力を体感でき、再来訪への期待を抱かせる展示

◆参考現況写真



センター入口



駐車場からセンター入口
までの現アプローチ



使用されていないトイレ



レクチャールーム



展示室内

